

第2回全国在宅医療会議における主な意見

(関係者の役割及び連携・協力について)

- 似たような団体がいっぱいあって、内容も非常によく似ていて、現実に国民が各地方でどこに相談したらいいかというときに、迷うのではないか。前へどんどん進めるために、一致大同団結してやっつけていかないといけない。(
- 地域包括ケアシステムを構築していく上では、地域において行政と医師会が車の両輪にならないと進まないと考えている。
- 中央ではいろいろな団体に分かれていても、我々にも医師会以外に病院団体があるが、都道府県レベルでは医師会の中に病院団体の方もほとんど入っていて一緒に活動している。そういう意味では、地域包括ケアシステムは、やはり医師会や歯科医師会、薬剤師会、そして看護協会を中心に、その他の団体も加わってやっつけていかないと進んでいかないと思うので、そういう枠組み、体制をしっかりとつくっていく必要があると考えている。
- 地域包括ケアという非常に大きな概念があって、それぞれが地域包括ケアに対してどういう答えを出していくのかということが求められているが、非常に時間が限られている。そういう中で全体のグランドプランをどうやって考えていくのか、それぞれが自由であるということも非常に大切だが、ある程度集約的な物の考え方をしていかないと間に合わないのではないか。
- 時間が限られているなかで、実態はものすごく変化して、きちんとしたシステムの構築がものすごく求められているという状況の中でエビデンスをどうするかとか、いろいろな問題が山積している。そういう問題をどこかで集約的に考えていくことも必要なのではないかと思う。
- 市民から見てここがしっかり窓口なのだというような仕組みをつくっていく必要があるのではないか。